穂高連峰・屏風岩

雲稜ルート

2011.9.10（土）-11（日）
L:河崎（記）、木下

今年はまだアルパインに行ってなかった。
ここ最近は、何となく山に行っていた感じでお手軽なフリーに行く事が多かった。
７月に瑞牆のベルジュエールや調和の幻想に行って、中々面白かったが、山の中でのアルパインはやはり充実感が違うのは体が覚えている。
屏風はいずれは行ってみたいと思っていたが、今回、周りのクライミング仲間の話を聞いて急に行く気になり、実現する運びとなった。

9/10（土）
朝６時城山ダムに集合、木下さんの車で向かう。初めはT4でビバークして、軽装で登ろうかと考えていたが、事前に得られた情報で１ルンゼ押し出しにテン場があるとの事だったので、そこから早朝アタックする計画でいた。今日は上高地から平坦な道を３時間半程度なので気が楽だ。
高速を飛ばしたおかげで 9 時半頃沢渡に到着、そこからバスで上高地に向かう。
時間も時間なので、比較的すいていて、のんびりとした雰囲気だ。
上高地からは木下さんが短パンになり、気合が入っている様子。さっさと歩いていき、着いて行くのが少し大変な感じ。
明神、徳沢、横尾といつも通りの道を歩く。
事前に横尾から少し行った所から対岸に渡渉した記録があった。しかし、そのまま登山道を歩いて行き、岩小屋跡から 1 ルンゼ押し出しに渡渉できるように大木で橋が作ってあった。
テン場は整地してあって快適に過ごせる。
時間も早いのでT4尾根取付きまで偵察に向かう。水だけ持って30分ほどで取付きに着いた。見上げると東稜を登っているパーティーが。こんな時間にまだ半分ほどだ。途中でビバークだろう。
取付きはビレイ点もあってすぐ分かる。暗い中初めてだったら分かりにくいかもしれない。

今日の夕飯は私が当番だ。三井さんの定番のつまみをパクリ、キュウリとカニカマのだしあえを肴にビールを飲む。
木下さんにも好評でお手軽だしつまみリストに入れさせて貰う事になった。
夕飯後少し冷えてきたので木下さんが焚火をしようとするが、うまく薪に火が着かず途中で断念する。明日は早いので、そのまま寝ることにする。
＜コースタイム＞
11：00 上高地－15：00 頃１ルンゼ押し出し

9/11（日）
３ 時起きの予定がなぜか目覚ましが鳴らずに少し寝坊する。
朝食はお湯を沸かすだけで、各自コーヒ

ーや味噌汁とおにぎりの簡単なもので済まし、時間短縮をする。

4 時半ごろ出発、当初 4 時半に登攀開始と計画したが、この時期だと暗くてとても登れない。5 時半頃、T4 尾根登攀開始。

仙台にった時、向こうの仲間がアタックザックにペツルの“バグ”というのを使っていた。クライミングがしやすいように、とことん考えられたもので、ザイルもザックの下に取り付けられ、とても良さそうだったので現在は自分もそれを使っている。

今回、シンプルなスタイルで登る為セカンドだけバグを背負っていくが、水等 2 人分が入り結構重い。

1 ピッチ目を自分がリードで登り始める。快適なピッチで調子よくスタート。(5 級) 2 ピッチ目は 5 級+となっているピッチ、木下さんが空身でハングを超える。セカンドの私は結構大変だった。

見下ろすと 3 人組のパーティーが。～さん等と指示をする感じからガイドか？。後で聞いたら長岡健一さんだった。

その後は踏み跡がある階段状の樹林の中を行き、最後にまた少し岩場が出てきて T4 に着く。私たちはそこもザイルを付けたが、初めの 2 ピッチだけで後はノーザイルで行けるのでそのほうが時間短縮になる。

T4 でガイドパーティーに追いつかれる。素早く行くと言う事で、私たちはゆっくり休憩して先に行ってもらう。

7 時 45 分頃いよいよ雲稜ルート登攀開始。木下さんは 2 回目だそうだが、以前来た時は壁が大きく見えたそうだが今回は小さく見えるという。私もそんなに大きくは見えない。アルパイン慣れしているとそうなってくるのか。

1 ピッチ目 5 級、凹角を登る、途中ハング気味の所がある。長岡さんは A0 していた。スタイルにこだわらずスピードと安全性がアルパインでは大事だ。

しかし、行ってみるとフリーで全然行ける。問題なし。ビレイ点手前が厳しく、安全のためにしょうがなく A0。

そこから右にトラバース気味に行く。(5 級+) 細かいホールドで、セカンドの

私は粘ってもしょうがないのでＡ０。
　もうスタイルのはこだわらない。
扇岩テラスで先行パーティーがアブミで核心部を登るのを時間待ち。ここでもビバーク出来ると書いてあったが、狭くてイマイチそう。
　核心はフリーだと 11C となっている。途中からはペツルが４本打ってあるが、それ以外はリングボルトが腐食していたり、シュリンゲに変わっていたりで、とても行く気にはならない。私がリードだったが、何の迷いもなくアブミで淡々と超えていく。

　アブミは久しぶりだったが、ハングしていないので意外と楽に行けた。
　その先もフリーで 10ａとなっているが、途中までは行けたがフレークのある所がもろく危険なので一部アブミ使用。
　次のピッチを登る頃には先行のガイドパーティーが懸垂を始めていた。
　最後のピッチは快適でクラックを使うルート。クラックの練習をしていないと余裕を持って行けないな。やはりクライミングはオールラウンドにやっていないと、色々な場面に対応できない。
　最後のスラブを登り終了となる。（11：45）休憩等をしていたので少し時間が掛った。
　今回、木下さんが 40mロープだった為ロープがぎりぎりの場面もあったが、5ピッチで雲稜は行けると思う。

　そこから懸垂を開始する。２回で扇岩テラスに着きそこからさらに下るがここでアクシデント発生！
　木下さんに先に行ってもらったが扇岩の角にロープが引っ掛かり下から全く引けない。あれこれ声を掛けあい、しょうがないので少し下った所にある木に捨て縄をかけそこから懸垂をした。完全に安心出来る木ではなく、もしそれが折れたら死ぬ、、、という恐怖。降りる最中は冷や冷やだった。
　扇岩から斜めに一度下った所に支点があり、おそらくそこから行くのが正解だったと思う。
　なんだかんだで時間が掛り、Ｔ４尾根の取付きに着いたのが懸垂開始から３時間近く経っていた。しかし、念願の屏風を登れ嬉しく木下さんとハグをした。
　上高地からのバスの最終が１７時だったが、すでに遅し。
　テン場に戻り片づけをして、下山を開始した。横尾でコーヒーをご馳走になりゆっくりしていると、単独らしき女性が下りてきて男性陣が声を掛けていた。そしてさっそく連絡先を交換している光景があった。どんどん声を掛けないとだめだ、と木下さんがよく言っているのを聞く。

上高地に着いたのが１９時頃、タクシーが１台止まっていたのでゆっくり構えていたらしばらくするとさっと行ってしまった。やられた！近くの待機所の人に声を掛けて再び呼び戻してもらい、沢渡に行ったが、途中で乗り換えがあり余計な出費となってしまった。
帰りは風呂に入る時間もなく松本インター手前の毎度のラーメンとん太でがっつりと食べ、家に帰ったのは日付が変わる頃だった。

屏風岩、上高地から涸沢に向かう時には誰しも目にする岩壁である。山をやっている人なら穂高岳には行く事はあるだろうから、ほとんどの人が知っているかと思う。
そして、あの壁を登るのかすごいな！と山をやり始めた頃には誰もが思うに違いない。そのうち行きたい、という気持ちはあったがなかなか機会がなかった。今回、ひょんな事から自分の中で気持ちが高まり行く事となった。そして木下さんという心強いパートナーと行く事が出来た。
登る力があっても、きっかけやパートナーがいないと登ることはできないなと改めて思った。
雲稜ルートは（フェイスの）フリークライミング能力、クラック技術、アブミとやはり総合力が必要なルートである。
アルパインクライミングを目指すなら、谷川や北岳、錫杖の一般的なルートよりワンランク上の実力が必要だが、やはり一度は行っておきたい名ルートだと思う。

＜コースタイム＞
3：30 起床-4：40 出発-5：30Ｔ４尾根登攀開始-7：45 雲稜ルート登攀開始-11：45 終了点-14：45Ｔ４尾根取付き-15：50 テン場出発-19：00 上高地